

湘南医療大学

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 保健医療学部 看護学科

名 前 本間誠淳

作成日 2025/04/18

1. 教育の責任

本学は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を理念に掲げる医療大学であり、私は2024年度に湘南医療大学の看護学科ヘルスケア看護領域に着任し、小児看護学を専門に教育をしている。本学では、自身の臨床での経験を活かし、以下の科目を担当している。「小児看護学(必修:2年)」「小児看護方法論(必修:3年)」「ナーシングプロセスⅡ(必修:3年)」「看護研究Ⅱ(必修:4年)」「看護基盤実習Ⅰ(必修:1年)」「ヘルスプロモーション実習(必修:3年)」「統合実習 小児看護領域(必修:4年)」

教育活動では、「3年生チューター」を担っており、担当学生の学習支援や進路指導、就職支援を行っている。また、「入試広報委員」として、オープンキャンパスの看護学科の企画・運営を行っている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

単に看護の技術を習得し、国家試験を合格するための学習ではなく、「看護することの楽しさ」を感じてもらえるように、授業や実習での指導に取り組んでいる。看護実践では「患者さんご家族に寄り添い、患者さんと家族らしい生活を支える看護」を大切にしている。教育方法としては、学生が臨床での実際の看護を具体的にイメージができるような授業の設計や教材の選択を心がけ、DVDや動画教材を使用している。臨床での実際を知り、技術を視覚的にも学べるような授業を実施している。また、ロールプレイの演習を通して、患者と家族の体験を疑似的に体験し、思いを知ること、患者と家族に寄り添った看護を実践できる学生の育成を目指している。患者と家族の心理面・社会面について考えることで、患者と家族の個性に合わせた看護を提供できる人材の育成を目指している。

2) 理念をもつに至った背景

上記の理念に至った経緯として、私自身の学生時代の実習での経験がある。実習は記録も多く朝も早いため、大変と感じる部分も多い。一方で、実際に患者さんに関わり看護ケアを実践できる貴重な機会である。患者さんに関わり、患者さんが少しでも安楽になれるためのケアはないかと考え、ベッドサイドで会話し、足浴などのケアを実践することで、患者さんから「話し相手がいてよかった。」「気持ちよかった。」などの言葉をもらうことができた。その時に私自身もとても穏やかな気持ちとなり、「看護することの楽しさ」を感じることができたからである。

臨床では、医療ケアを必要とする子どもの支援に従事し、また地域で生活する障害児の支援を行ってきた。人工呼吸器など多くの医療ケアを必要とする子どもと家族が、様々な制限のある中でも、ベッド上でもボールプールで遊んだり、公園にお散歩をしたりと、その子どもと家族らしく、生き生きと生活している姿をみて、看護師として

できる支援はないかと考えるようになった。子どもと家族の思いや希望を知り、その思いにより沿い、障害があるからできないではなく、障害があってもできるように支援していくための看護を心がけている。

3. 教育の方法・戦略

2024年度より本学に着任し、以下の講義を担当した。

【小児看護学(必修:2年)】

講義概要:看護の対象としての子どもと家族を理解するために、子どもの権利や子どもの成長・発達について学習する。また、健康障害を持つ子どもと家族を看護するための方法について学習する。循環器疾患をもつ子どもと家族の看護、救命救急を要する子どもと家族の看護の講義を担当している。授業資料では、写真や図表を用いて説明するとともに、小児を対象としたBLSの動画などを用いて講義を行っている。

【小児看護方法論(必修:3年)】

講義概要:健康障害を持つ子どもと家族の看護の方法について学習する。また、事例を基に看護過程を展開し、小児を対象とした看護技術の演習を行い、知識と技術の習得に向けて学習する。検査処置を受ける子どもと家族の看護の講義、小児看護技術の演習を担当している。講義では、DVDや動画を活用し、具体的な事例と示すことで、学生が実際の場面を想起できるような教材の作成に取り組んでいる。また、技術演習では、ロールプレイで技術を実施することで、看護師からの視点だけでなく、患者や家族の立場の思いや体験ができるように設計している。

【ナーシングプロセスⅡ(必修:3年)】

講義概要:各専門領域の教員がオムニバスとなって、様々な状態にある患者の看護過程の展開の演習をする。小児を対象とした看護過程の展開の講義を主に担当し、子どもと家族の看護を展開するための思考過程について指導した。

【ヘルスプロモーション実習(必修:3年)】

実習内容:様々なライフステージにある人を対象に、健康の維持・増進をするための看護について実習をとおして学習する。主に、チャイルドヘルスのプログラムを担当し、あらゆる健康状態にある子どもと家族が地域で生活していくための支援の方法について指導をしている。小児科外来や幼稚園、子育て複合施設における実習を行っている。患者さんとのかかわりを振り返り、教材化することで、学生の体験に意味づけし、学生が学びを深められるような指導を心がけている。

4. 学習成果

講義における学生からの評価コメント

・今回の講義では、検査や処置を受ける子どもに対してどのような対応をするのが良いのか学習することが出来た。事前課題でレポートにまとめてきたが、文字だけではイメージ

することが難しいと感じたが、講義内で動画を見たり、先生のスクラブを見せてもらったりしてイメージ化しやすくなった。

・スライドが見やすく、どこが大事か色をつけ口頭でも述べてくれ、レジュメや動画において、適宜解説をつけてくださりとてもわかりやすい講義でした。ありがとうございました。

5. 改善のための努力

実習記録指導について:学生の学びが深められるように、きめ細やかに添削しコメントをすることで、体験を意図的に振り返る機会を提供する。

演習の内容・構成について:着任して初めての演習であり、演習の内容や構成の修正が必要であると感じている。学生のレディネスについて、十分に把握するとともに、リアクションペーパーの内容から改善を検討する。

6. 今後の目標

【長期目標】 子どもの成長・発達を理解したうえで、子どもの権利を尊重した看護の方法について、学生自身で考えらえるような講義・演習を実施できるようになる。

【短期目標】 学生が主体的に学習に取り組める講義や演習を企画するために、本年度の実施した授業のリアクションペーパーを振り返り、改善方法を検討する。

【添付資料】 なし